

関西学院 千里国際中等部・高等部

新シリーズ「Authentic Opportunities 本物に触れる教育」 第11回

成人式を迎えます

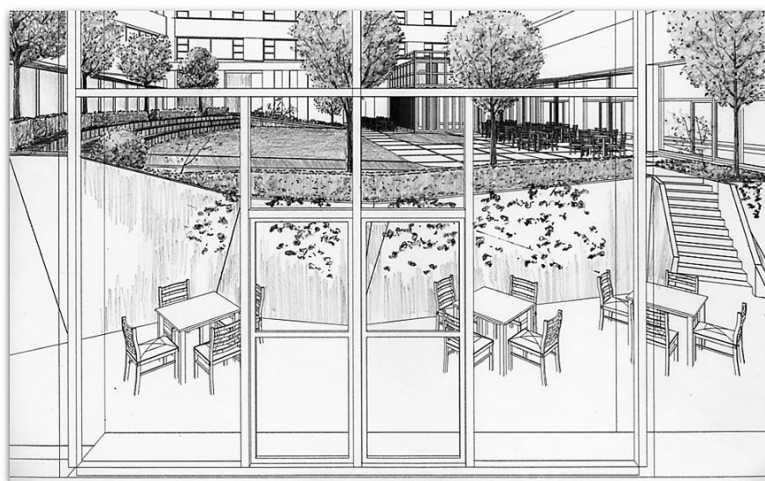
1991年4月に大阪国際文化中学校・高等学校（Osaka Intercultural Academy、略称 OIA）が開校し、9月に Osaka International School（略称 OIS）が続いた。スクールロゴには OIA と OIS に共通の O と i が取り入れられている。

外国人子弟のためのインターナショナルスクールと日本の生徒を対象にした学校（学校教育法第一条に規定された学校、いわゆる「一条校」）が共存するという日本で初のユニークなキャンパスが産声をあげる背景となるのは、元駐日大使のライシャワー氏が提唱し、1987年の臨時教育審議会の第3次答申で具体的な提言として示されていた「新国際学校」という構想である。文部省の委託研究として「新国際学校研究協議会」ができ、これを大阪府がバックアップし、阪急を中心とする関西財界の援助を受けて設立が進められたのだ。大阪府ではこれに先立つ80年代初頭より国際化計画があったためだ。この時期この構想で作られた学校は、東京の都立国際と本校の二校である。受験というふるいを通して均一化された生徒が集まってしまう一般的な日本の学校とは正反対で、私達の学校は、その始まりから、様々な個性がぶつかり合い、認め合い、学びあって成長する場として設計されたというわけだ。

初代校長の藤澤皖（ふじさわかん）氏は学校立ち上げのために、開校の2年前に東京のICU高校を辞してこの地で設立の準備を始められた。そして日本中、世界中から集められた立ち上げメンバー教員が時間をかけて議論を繰り返して、開校準備をした。この頃熱い議論を経て決められたことのひとつが、今も我が校の根幹をなす「5つのリスペクト」だ。いわゆる日本的「校則」では、インターナショナルスクール



オギャーと生まれた赤ん坊が成長し、思春期を過ぎて落ち着きを見せる20歳。日本ではこの年齢を大人への入り口と認め、成人式というお祝いをする。我が校も今年成人式を迎える。1991年4月に開校してから20年。2011年4月22日（金）－24日（日）に記念行事を行うべく、今準備をすすめているところだ。今回は、この20周年記念行事を前に、本校の20年間の略歴を紹介させていただきたい。



20周年を記念して中庭を新たに作る計画